

## 国際バカロレアの実践コミュニティに関する考察

### — 教員間の情報・知識の共有に着目して —

佐々木南実

#### 1. はじめに

日本におけるグローバル人材に関する議論は、1990年代後半から政府や民間レベルの双方で活発に行われてきた。その中で「国際標準のカリキュラム」を謳う国際バカロレア (International Baccalaureate : 以下 IB) (渡邊 2014:40) の日本への導入が本格化している。

2017年、文部科学省 (以下文科省) が開催した「国際バカロレアを中心としたグローバル人材育成を考える有識者会議」においては、2ヵ月の間に4回の会議が行われ、2017年5月には「国際バカロレアを中心としたグローバル人材育成を考える有識者会議 中間とりまとめ」が発表となった。そこでは、今後の主な推進方策として、(i) IB 推進に向けた関係者の包括的体制 (コンソーシアム等) の形成、(ii) 情報共有に向けた ICT プラットフォームの構築 (文科省 2017) があげられた。ICT プラットフォームの構築に関しては、「IB 校以外の学校を含めた情報共有も可能にするとともに、世界における IB のネットワークとも相互連携可能なものになるよう留意することが必要である」と述べ、「成果や課題、知見を共有する『IB 推進の司令塔』としたい」<sup>1</sup>と文科省はしている。

IB は、国際バカロレア機構 (International Baccalaureate Organization, 以下 IBO) の提供する教育プログラムである。IBO はスイスに本拠地を置く非営利組織で、研究者や教育コンサルタント<sup>2</sup>に外部委託しながら、さまざまな

教育理論を集約、整理し、実践現場で使用するパッケージとしてプログラムを提供している。

IB を通じて入ってくる理論や実践に関する情報を、教員がしっかりと理解・吸収し、教室での生徒たちの利益のために役立てることは、IB 教員そして IB 導入校の共通のミッションである。そのためには教員たちの実践のノウハウは、常に更新し続けられなければならない。本稿は、そのために教員の「実践コミュニティ」が果たす役割について検証する。目的は、教員の横のつながりを、学校組織の中で効果的に位置づける方法について考察することにある。

本稿は次の通り論を進める。まず IB とはなにかを確認したうえで、レイヴとウェンガーによる「実践コミュニティ」(Communities of Practice) の概念から、現存する IB 教員のコミュニティの形態を概観し、それらを通しての考察を試みる。

実践コミュニティの概念は、人類学者ジーン・レイヴとエティエンヌ・ウェンガーが 1991 年の著書「状況に埋め込まれた学習 - 正統的周辺参加」(佐伯胖訳 1993) において実践を通しての学びの過程を見直す中で提唱したものである。その定義をウェンガーは「あるテーマに関する関心や問題、熱意などを共有し、その分野の知識や技能を、持続的な相互交流を通じて深めていく人々の集団である。」(ウェンガー他 2002:33) と近著で改めて述べている。

知識基盤社会に教育がシフトする中、IB に蓄

積されている、また随時アップデートされる情報やノウハウが日本の教育現場に浸透すれば、それは日本の社会が必要と認識する国際的に活躍できる人材の育成にとって利益をもたらすだろう。その情報の浸透の過程に重要な役割を果たす実践コミュニティは注目に値する。

## 2. 国際バカロレアについて

1960年代、国際連合やその関連機関、各国在外大使館や多国籍企業に勤務する職員の子供たちにおいて、世界各地の転居をくり返す生活上、大学入学のための国際的な統一資格が必要とされていた。この要請に応じて IBO は中等教育に相当する「ディプロマ・プログラム」(以下 IBDP) を構想、1966年にパイロット・プログラムを開始した。批判的思考力や創造性、異文化理解を重視するプログラムとして、世界のどこでも仕事のできる若者の育成を行い (Hill, Saxton 2014)、欧米の一流大学に進学する生徒との親和性も高いプログラムである。

IBO は認定した学校を IB World Schools と呼ぶ。認定を受けるためには、学校の理念、信条が IB のそれと合致するものになっているか、教員の配置や ICT 環境、理科実験室設備や図書館の蔵書に至るまで、さまざまな項目でチェックが行われる<sup>3</sup>。通常、認定までのプロセスには2年から3年を要するといわれ、認定校となったあとも5年毎<sup>4</sup>に確認のための学校訪問が行われる。

国際教育市場の拡大を受け、学校に教育プログラムを提供する企業/団体は増加中だが、プログラムを提供する学校に対して運営方針の調整などを求めるのは現在のところ IB だけである。IB 認定校となる申請過程で、学校は7つの基準と50以上の実践の項目からなる IB の「プログラムの基準と実践要綱」(IBO 2014) に従って自らの学校方針を見直すことになる。結果として形づくられるのは共通の使命と価値観を持つはずの、国際的な教育者たちの包括的ネットワークである (House 2015)。

こうした「認定」に基づく一種のフランチャイジングの国際教育のモデルを、「ビッグマック

とコーク」に例える研究者もいる。どこの国で提供されるかにかかわらず、同じ品質基準を保証するグローバルなブランド商品 (Cambridge 2002) であることは、保護者の仕事により世界各地を転居することを前提とした、創生期の IB の生徒たちにとっては大切なことであった。IB 校の生徒になるということは、世界に4,787校<sup>5</sup>ある IB World Schools のコミュニティの一員になることを意味する。また、教員にとっても、IB 校で経験を積むことは世界各地の学校に転職のチャンスが広がることになる。

統一されたブランドのもと、国際的に事業展開する IB であるが、近年はインターナショナル・スクールだけではなく、学校所在国の生徒が通う私立・公立校にも採用され、当該国のナショナル・カリキュラムに準じてローカライズできるものとして提供されている。エクアドル、メキシコ、トルコ、シンガポール、ドイツ、オーストラリア、パキスタン、スイス、アメリカなどの現地校で採用されている。各国のナショナル・カリキュラムとの整合性をとることは、認定校を増やすうえで IB にとって大変重要なことである (Faas 2014)。

IBO が日本においてローカライゼーションを試みるチャンスを得たのが、IBDP の科目の一部を日本語でも実施可能とする「日本語と英語によるデュアル・ランゲージ・ディプロマ・プログラム」(以下「日本語 DP」) の創設である。2013年5月22日に IBO が発行したプレスリリース Japanese Students Obtain Greater Opportunities to Pursue an IB Education には、「このエキサイティングな新局面において、IB は MEXT (文部科学省) との緊密連携のもと、日本語を IB ディプロマ試験におけるレスポンス・ランゲージに含め、コア・ドキュメントを翻訳することによって当該科目における指導と学習をファシリテートしていきます。」(IBO 2013より筆者訳)と書かれている。IB用語でレスポンス・ランゲージとは、IB ディプロマ取得試験を執り行う言語を指す。英語、フランス語、スペイン語、ドイツ語、中国語が設定されていたレスポンス・ランゲージに、

日本政府が IBO に翻訳料その他を支払うかたちで、日本語が加わったのである。

「日本語 DP」の創設を受けて、日本における IB の教員養成の動きが一気に活発化した。IB 教員になるためには、特にこれといったひとつの決まった方法があるわけではない。IB 認定校に就職した新人教員は、先輩教員とのチーム・ティーチングや、IB から発行される資料、学校から派遣される IBO 主催の教員研修である IB ワークショップ（オンラインも含む）などを通して IB 教員としての知見を蓄積していく。

日本語 DP のスタートにあたっては、そもそも日本語で各科目を教えることのできる IB 教員が圧倒的に少なかったため、文科省はワークショップの費用を負担したり(2017 年度)、大学における IB 教員養成課程の設置<sup>6</sup>を働きかけるなどして、IB 教員養成を推進してきた。

### 3. 実践コミュニティの概念

ウェンガーは、学びを人の頭の中（あるいは外）で起きるのではなく、人と世界との関係の中で起きるものであると設定する。参加という関係性の中で社会と個人は相補的に存在している。そして、実践コミュニティという社会的な学習システムの中で、参加者は複雑な自己を上書きしながら新しい意味を構築していく。実践コミュニティは、どんな組織にも必ず存在する「人々が共に学ぶための単位」なのである (Wenger 2010)。

実践コミュニティには多様な形態があるが、基本的な構造は、メンバーのあいだに共通の基盤を作り、一体感を生み出す「領域(ドメイン)」、信頼で結び付き、親密さと探究意欲の入り交じった「コミュニティ」、そしてコミュニティ内で共有される専門用語や知識を指す「実践」で成り立っている。強く結び付いたコミュニティの中では、メンバーは自発的にアイデアを共有し、無知を露呈し、注意深く耳を傾ける。コミュニティの重要性は、学習が理知的なプロセスというだけではなく、帰属意識に関わる問題としてメンバーたちに受け止められているという

点にもある。つまり実践コミュニティは、単なるデータベースやベストプラクティスの寄せ集めではなく、共に学習し、影響を与え合う中でお互いに対するコミットメントを築く集団である。各メンバーはコミュニティとの関わり合いの中で、個人としてそれぞれ独自のアイデンティティを築いていく (ウェンガー他 2002)。

IB 教員がウェンガーらの実践コミュニティの定義を読んだならば、それはまさに IB ワークショップの風景について書いていると思うだろう。海外も含め各地から IB 教員や学校管理者が参加する IB ワークショップでは、教員たちは勤務歴や役職は関係なしにフラットな関係で IB 実践に関する疑問を打ち明け合い、学び合い、連絡先を交換し合い、お互い助け合っていく人間関係を構築する。教員たちは初対面であっても IB という共通の領域、コミュニティ、実践の中ですぐに打ち解け、熱心に情報交換を行うのである。

### 4. IB における実践コミュニティ

ここまででは、レイヴとウェンガーによる実践コミュニティの概念を確認し、IB がさまざまな規定や規約を使い、認定校を統治 (House 2015) するなか、ワークショップという環境を提供することによって実践コミュニティの構築を後押ししている様子を確認した。

本節では現存する IB 教員の実践コミュニティについて個別に見ていく。その枠組みとして、ウェンガーらが示した「コミュニティと公式の組織とのあいだの関係」の分類 (図 1) を用いる<sup>7</sup>。

さらに IB をめぐる教員の実践コミュニティを、ワーキングランゲージ (英語、日本語) 別に提示し、ウェンガーらの制度化の度合いに従い、その分布を示した (図 2)。

日本語 DP 創設以前は、IB 教員の実践コミュニティにおける日本語による活動は、非常に限定的であった。外国語としての科目「Japanese」の教員グループ、あるいは英語による IB を実施するひとにぎりの一条校のあい

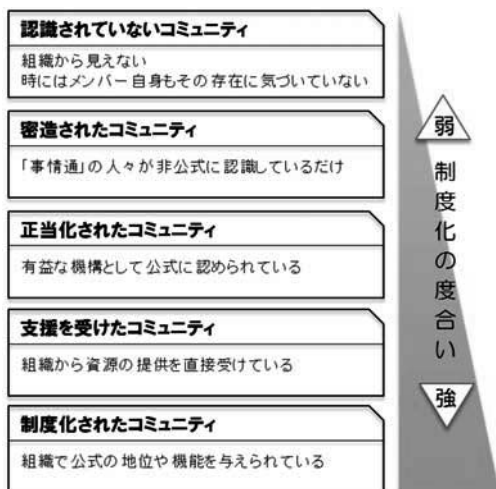


図1 コミュニティと公式の組織との関係  
(出典: ウェンガー他 2002:63 より筆者作成)

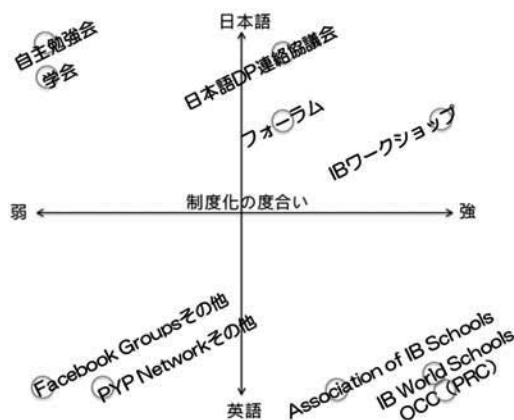


図2 IBの実践コミュニティの分布  
(出典: 筆者作成)

だの情報交換や協働(資料の翻訳など)に限定されていたといつてよい。そのため、以下に提示する日本語による実践コミュニティは日本語DP創設以降に設立されたものとなる。また、IBワークショップについては日本語で開催されているものに限って取り上げた。

### (A) 密造されたコミュニティ

- ・自主勉強会(日本語)

日本語DP開設以降、IB教員が自ら主催する勉強会<sup>8</sup>や講演会などが、さまざまな規模で行

われている。日本のIB教員はまだ少ないため、対面式の実践コミュニティが形づくられている。人脈作りのための参加者も多い。

- ・学会

日本国際バカロレア教育学会(JARIBE)は2016年に設立された学会で、「IBの教育についての研究および実践研究の推進を図り、会員相互の交流と協力によって、IB教育研究の発展に努めることを目的としている」(JARIBE 2016)。2016年に第1回、2017年に第2回の大会を開催、第1回では39本、第2回では31本の研究発表があった。シンポジウムも実施。IB教員や研究者が一堂に会するこれらの大会やシンポジウムは、貴重なネットワーキング、情報収集の場である。正会員53名、学生会員17名、団体会員4校、賛助会員4団体。大会事務局は筑波大学IB研究室内に置かれ、会長は同大学の犬飼・ディクソン・キャロル客員教授である<sup>9</sup>。

### (B) 支援を受けたコミュニティ

- ・国際バカロレア・デュアルランゲージ・ディプロマ連絡協議会

IBに関心を有する高等学校等が情報共有等のために設立された団体として「国際バカロレア・デュアルランゲージ・ディプロマ連絡協議会」以下協議会)がある。2013年5月に設立された同協議会は、東京学芸大学内に事務局が置かれ、東京学芸大学理事・副学長の國分充氏が会長を務める。2017年9月現在、74校・機関が会員となっている<sup>10</sup>。IBOとの直接の関係は結んでいないものの、IBワークショップの開催に合わせて総会が開催されていることから、IBO共催イベントと同じグループに分類した。

- ・国際バカロレア機構共催によるフォーラム

インターネット検索の結果、「国際バカロレア機構共催」との記述のあるイベントの開催が数件確認できた(表1)。IBOのロゴの使用が許可されており、IBOの社員が講演者やパネリストとして登壇する場合も多いため、「支援を受けたコミュニティ」に分類した<sup>11</sup>。



表1 IBO 共催によるイベント (出典 : Google 検索 (2018/1/19 検索) より筆者作成)

開催年	タイトル	主催/共催
2006	第1回 IB 国際バカロレア教育シンポジウム	玉川大学学術研究所 全人教育研究施設、IBO アジア太平洋地域事務局
2008	玉川大学 IB 国際バカロレア教育フォーラム	玉川大学学術研究所 K-16 一貫教育研究センター、IBO アジア太平洋地域事務局
2010	玉川大学国際バカロレア教育フォーラム	玉川大学学術研究所 K-16 一貫教育研究センター、IBO アジア太平洋地域事務局
2013	玉川大学 国際バカロレア教育フォーラム	玉川大学学術研究所 K-16 一貫教育研究センター、IBO
2014	第7回玉川大学国際バカロレア教育フォーラム	玉川大学学術研究所 K-16 一貫教育研究センター、IBO アジア太平洋地域事務局
2014	IB 教師養成フォーラム	玉川大学教師教育リサーチセンター、IBO アジア太平洋地域事務局
2014	国際バカロレア大学入試活用セミナー	文科省、IBO
2015	第8回玉川大学国際バカロレア教育フォーラム	玉川大学学術研究所 K-16 一貫教育研究センター、IBO アジア太平洋地域事務局
2016	国際バカロレアを体験してみよう	高知県教育委員会、IBO
2016	第9回玉川大学国際バカロレア教育フォーラム	玉川大学学術研究所 K-16 一貫教育研究センター、IBO アジア太平洋地域事務局
2017	第10回玉川大学国際バカロレア教育フォーラム	玉川大学学術研究所 K-16 一貫教育研究センター、IBO アジア太平洋地域事務局

### (C) 制度化されたコミュニティ

#### ・IB ワークショップ (日本語)

前述したように、IB プログラムを教えるためには IBO が主催する3日間のワークショップ (約 15 時間) に参加することが求められる。IBO では熟練の度合いに応じて3段階のワークショップを用意しており、2017年のカタログには 92 ページにわたってオンラインも含め、さまざまな種類のワークショップが紹介されている<sup>12</sup> (日本語では一部の内容のみを開催)。

講師はワークショップ・リーダーと呼ばれる現役または最近引退した IB 教員が務める (3年以上の IB 教員経験が条件<sup>13</sup>)。

しかし、3日間で必要な学びがすべて得られるわけではなく、ワークショップは導入に過ぎない。ワークショップの最後には、講師は参加者が連絡先を交換し、今後も付き合いを続けていくよう促す。ここから広がる横のつながりが、IB 教員研修としては重要な意味を持つ。

### (D) 密造されたコミュニティ

#### ・Primary Years Programme East Asia Network

IB から認定を受けた教員たちのネットワー

ク The IB Association of Japan : IBAJ (後述) の関連グループとして Primary Years Programme East Asia Network、East Asia MYP Coordinators Network、Diploma Coordinators Network の名称が IBAJ のホームページには記載されており、日本国外にも教員たちの交流が広がっている様子を伺うことができる。Network と名前がついているこれらの小グループは、IBAJ が IBO に認められたフォーマルなグループであるのに対して、自主的かつインフォーマルな教員たちのコミュニティである。IBAJ の総会と同時にこれらの小グループも会合を行うようである。Primary Years Programme East Asia Network についてはウェブサイトを確認することができた。授業で使用したプリントなどをダウンロードできるようにしているが、サイトの作りはシンプルであり説明もないため、詳細を読み取ることはできなかった。オンラインがメインのコミュニティというよりは、対面ネットワークが前提としてのコミュニティなのかもしれない。

#### ・Facebook Group など

2017年11月17日に“IB teacher”を検索

表2 Facebook “IB Teachers” グループ  
(出典:Facebook(2017/11/17 検索)より筆者作成)

Facebook Group 名前	人数
IB Theory of Knowledge Teachers' Support Group (no students)	3579
Private School Teachers Lahore (Kindergarten to O/A level or IB)	2201
IB Psychology Teachers Support group	1240
IGCSE,SAT & IB Teachers-Students Community	1098
IB PYP Teachers let's share our daily experience	1035
IB DP Geography Teachers Support Group	930
IB Language B Teachers	919
IB/AP Biology Teachers	789
IB Psychology Teachers	698
IB Language Teachers Connected	696

ワードとして Facebook Groups で検索した結果、80 のグループがヒットした。検索にかからない「秘密のグループ」として登録しているグループも複数確認できた。下記にその中から主なものを挙げた (表 2)。多くのグループは管理者に連絡を取り現役の教員である旨を自己申告してからメンバーになるという仕組みをとっているが、基本的にチェックの基準は厳しくはない。やりとりは活発で、レッシンプランやプリントなどの蓄積も多い。内容の例としては TOK のプレゼンテーションのキューカードとして生徒が iPhone を使っても大丈夫でしょうか?、「Think IB という有料サイトは入る価値ありますか?」「ペンパル募集」「スカイプで生徒たちを交流させませんか?」などといったものから、「知識に関する問いとしてこれは広すぎるでしょうかー『新しい知識の創造に果たす役割において記憶はどこまで有効か?』」一意見お待ちしています」等、さまざまである。

### (E) 支援を受けたコミュニティ

#### ・Associations of IB Schools

IBO はまた、地域ごとに認定校が有志による任意組織を結成し、教員同士が交流をはかることも推奨している。世界各地にある自主的な教員たちによる組織を、IBO は Associations of

International Baccalaureate (IB) World Schools と呼んでいる。IBO のホームページには IBO と当該組織との関係性がこのように説明されている：

*IB は Associations of IB World Schools と緊密に協力しています。これらの組織の多くは IB からの認定を受けており、IB World Schools のネットワークを支える重要な役割を担います。IB World Schools と同様に、各組織は独立したもので IBO が運営や管理を行うものではありませんが、当該組織が希望すれば IBO が定める条件を満たし、同意書やライセンスの手続きを取ることによって IBO と正式な関係を結ぶことができます。*

*これらの組織は初めて IB を知る学校にとってなくてはならない情報源となり、豊かな IB の経験と助言を提供し、しばしば自治体や政府レベルにおいても IB プログラムの知名度を上げるために活躍します。IB の地域事務局と連携し、IB ディプロマ・プログラムに対する大学や政府の認定を得るための交渉に一役買うこともできます。(IBO ホームページより 14)*

IBO と正式な関係を結ぶことのメリットとしては、(1) IB のロゴマークと Associations of IB World Schools のタイトルを使用することができる、(2) 認定組織として IBO のウェブサイトに掲載される、(3) IB 資料を一定条件の下で利用することができる、(4) IB 地域事務局に電話/e メールで質問をすることができる、(5) IB が主催する会議に招聘される可能性がある (エキスパート・ティーチャーとして認知される可能性)、の 5 点を IB は挙げている。2017 年現在、世界に 51 の IB Association があり、日本には The IB Association of Japan (以下 IBAJ) がある<sup>15</sup>。IBAJ は、前身であった East Asia Association of IB School Heads、Japan Association of IB School Heads を統合させるかたちで 2014 年に設立された。この統合および設立は IBO からの依頼によるものであった (Crawford 2017)。IBAJ は 2017 年 11

月現在、31校が会員となっている<sup>16</sup>。同ホームページによれば、会長は横浜インターナショナル・スクール校長のクレイグ・クーツ氏である。

IBAJではJOB-A-LIKEと呼ばれる分科会のテーマを会員から募り、テーマを提案した教員自身がグループ・ディスカッションのリーダーを買って出るなど、会員校同士による自主勉強会といった色合いが強い。また、日頃の業務運営の中で生じた疑問をとりまとめ、IBOに直接質問するための貴重な場ともなっている。

日本で最古参のIB認定校セントメリーズ・インターナショナル・スクール（認定取得日1979年9月1日）から、2013年までのあいだに認定された全28校がIBAJ会員となっている。

IBAJの会員間の連絡はBasecamp<sup>17</sup>というプロジェクト管理ソフトウェア内で行われている。Basecamp内のスペースはIBOから提供される。Basecampは、複数のグループを一括管理でき、各グループ内でも自由に情報共有が可能なソフトウェアである。IBOは、IBAJにBasecamp内でひとつの「部屋」を与え、IBAJの会員間の連絡はその部屋の中で行われている<sup>18</sup>。独立した責任を持つ会員が自主的にお互いのために助け合いの場を設け、IBOはそれをオフィシャルであると認知しつつ、見守るというかたちになっている。

## (F) 制度化されたコミュニティ

### ・IB World Schools

学校の個々の状況に応じて発生する問い合わせに答えるために、IBOは2017年3月にIB World Schoolsという新部署を立ち上げた。従来提供されていたIB Answerというヘルプデスクの機能を拡充させるかたちである。「私たちが大切にしている信条は素晴らしいカスタマー・サポートです」<sup>19</sup>と説明されており、この部署の業務内容としては、オンライン・セミナーなどの開催のほか、各認定校に相談窓口となる専用の担当者（リレーションシップ・マネージャー）を付け、質問に答えたり、似たような境遇にある別の認定校を紹介したりするというのである。「IBOは皆さんのこと、そして皆さんのプ

ログラム導入に関わる課題についてより良く知るためにより多くの時間をかけたいと思っています。皆さんがニーズについて話し合ったり、課題解決のためにアイデアを出し合ったり、より深い会話を交わしていただくために、私たちはIB World Schoolsに実践コミュニティとして集まってほしいのです」<sup>20</sup>とホームページに記載されている。

### ・OCC (PRC)

IBの公式文書すべてにアクセスできる、ホームページ内のOnline Curriculum Center (OCC)は、認定校が利用するために1999年に開設された。IB候補校（認定校の前段階）として登録後、この資料集にアクセスが可能になる。また、IBサイト内にはIB教員同士でさまざまなやりとりが可能な掲示板も用意されている。フォーラムと呼ばれるこの掲示板は1999年から2003年にかけていろいろなトピックが段階的に開設されていったものである<sup>21</sup>。しかし、この掲示板ではあまり活発な情報交換は見られなかったという。その理由としては、教員たちがIBOに対して「IB教員としての力量不足を露呈したくない」という心情が働くからではないかと分析する研究者もいる<sup>22</sup>。IB認定校に勤務する教員たちには、経験に応じてIBOでの臨時の仕事の機会が開かれる<sup>23</sup>（表3）。IB教員たちは、経験を積み、専門性を高めながら自分のキャリアを構築していく。

表3 IBOが教員経験者に外部委託する仕事  
（出典:IBOホームページ他を参考に筆者作成）<sup>24</sup>

IBO呼称	説明
Assessment author	試験問題執筆者
Assessment external advisor	試験問題監修者
Examiner	試験採点者
Workshop leader	ワークショップ講師
Building Quality Curriculum coordinator	ユニット・プラン監修者
External advisor	指導の手引き等監修

OCCのフォーラムは2017年11月より新ウェブサイト Programme Resource Center (PRC)に移転した。掲示板でディスカッションを行うスタイルは同じであるが、新しいサイトには投稿数に比例したポイントの授与や一定数以上の質問に答えた人に「エキスパート」の称号が与えられるなど、ゲーミフィケーションの要素が加わっている。IBコミュニティ内における個人の知識の高さやコミュニティへの「功績」を可視化することができ、IBO内で外部の監修者などを捜す時に使いやすい仕組みになっている。また、PRCにはメンバー以外は閲覧禁止とする機能も新しく加わり、「日本語 DP コーディネーター・グループ」というメンバーオンリーのグループも立ち上がっている<sup>25</sup>。

以上の(A)～(F)の事例を見た結果、ワーキングランゲージ別の違いでは、英語ではFacebook等を利用した情報交換用のオンラインコミュニティの発達が顕著であることが確認できた。表1で示した例を含め、IBの教育実践で先行する英語およびその他のヨーロッパ言語を使う教員のあいだでは、インターネット上のソーシャルネットワーク Facebook、WhatsApp、Twitterなどを利用した活発な情報交換、実践に利用した教材の共有などが数多く行われている。自主的に活発な活動は制度化の度合いの最も弱いところで起きていることが確認できた。

Rutherford (2010) は、教員の職能研修における Facebook の役割に注目し、量的調査を行った。その先行研究の検討において、効果的なプロフェッショナル・ディベロップメントの要素を表4のようにまとめた。

表4 先行研究からの効果的職能研修の要素

持続的、継続的、集中的であること
実用的で、ローカルな授業実践と生徒の学習に直接関係していること
協働的で、知識を共有する行為を含むものであること
参加者主導であり構成主義的な性質を持っていること

(出典：Rutherford (2010))

そして、「Facebookのディスカッション・フォーラムのダイナミックな特性は、非公式ながらもこれらの要素を複数保有しており、今後ユニークな位置づけを持つ可能性がある」と述べている。さらに、「Facebookは、教員たちが知識や教育実践を成長させるために使用することのできるパワフルな媒体で、Facebookグループの類のディスカッション・フォーラムに参加することで、教員は協働的に作りあげる、無限の教育的課題についての数々のディスカッションに参加することができ、そこには無料で参加でき、恥をかくリスクも色眼鏡で見られることもない環境がある」としている。

## 5. 組織の戦略といかに結びつけるか

IB導入が始まったばかりの現在の日本では、トップダウン的に、教員はいわば業務命令によって「IBの実践コミュニティ」のメンバーとなるケースが多い。ここで教員が新しいIBの実践者として、取り込むことになる情報は以下の3種類に大別することができる。

①IBOからの認定を受けるため、また認定校として運営するために必要な手続きに関する公式情報

例) 認定申請の際の書類の書き方

②日々の運営の中で生じるインフォーマルな事態に対応するための非公式なノウハウ

例) TOKプレゼンテーションはすべて録画しておく必要がありますか？

③IBの枠組みの有無とは関係なく、教員として学ぶためのIBプログラムの中にある理論や実践の情報

例) 非認知能力を育てるための発問とは？

①は、IBOや文科省が発行する文書から入手することができる。②は、先行IB校や教員同士のネットワークを使って質問したり、IB AnswerやIB World Schoolsのリレーションシップ・マネージャーに聞くことができる。③は、教員自身の発達・変容・アイデンティティ形成に最も深く関わる部分であり、文脈に沿った実



実践コミュニティの中で学ぶことのできる情報やノウハウである。また、日本が日本語 DP の創設によって IB 校以外の学校の教育にも「IB 教育の良さを取り入れた教育」(文科省 2017) が広がることを期待するのであれば、このノウハウが最も重要になる。IB の理論や実践とて鍛えた教員が、将来非 IB 校に移動した場合、その人は IB 的な教育の知識の伝達者となるだろう。

今まで、ウェンガーとレイヴの実践コミュニティのモデルは数々の大企業の経営戦略に取り入れられてきた。組織とコミュニティとの関係をウェンガーはこう説明する：

*最も重要なのは、実践コミュニティが実践者の能力開発と職業的アイデンティティを組織の戦略と結びつけることによって、価値を創造することである。(中略) 組織が知識をフルに活用するためには、知識の世話人であるコミュニティと、知識が適用されるプロセスとを織り合わせる必要がある。(ウェンガー他 2002:p51)*

今後、日本の教育が IB プログラムを導入することを優先するか、IB の学習方法を敷衍することにシフトすべきかは未知である(窪田 2017)。しかし、いずれにしても IB に集約されアップデートされる教育実践のノウハウを、学校経営者は教員個人の技量の問題として見過ごすことなく、しっかりと学校や社会の資産として活かす必要がある。

## 6. 考察

本稿では IB 教育に着目し、現存する教員たちの実践コミュニティについて整理した。

「実践コミュニティが最も繁栄するのは、組織の目標とニーズが、参加者の情熱や野心と交差する時だ。領域がメンバーを鼓舞するものでなければ、コミュニティは前途多難である」とウェンガーら (2002:69) は述べる。日本の教育の文脈においては、この「組織」は「社会」と読み替えることができるだろう。

ウェンガーらは、実践コミュニティが組織やメンバーにもたらす短期的及び長期的価値を明

文化し、組織の中でいかに実践コミュニティを育成していくかをビジネスの文脈の中で実践して見せている。その手法は学校という文脈の中でも機能するのだろうか？ 文科省がいう「IB 教育の良さを取り入れた教育」が、単なる IB プログラムの劣化コピーにならないためには、どのような管理が必要なのだろうか？

今後の研究の中ではそれを知るために、次の課題を設定する：

- ・日本の学校は教員の「知識」を今までどのように管理してきたのかという現状分析
- ・教員たちのコミュニティを「事情通の人々が非公式に認識する」レベル以上のものに適切に制度化するために、管理者がすべきことは何か

実践コミュニティはその活動の目的や規模はさまざまで、それぞれの役割や寿命を持って現れたり、消えたりしている。今回は個人のブログや、日本語 Facebook ページ、大学の IB 教員養成コースで学ぶ学生たちのコミュニティなどには触れることができなかったが、それらのコミュニティも今後の研究の課題に含めたい。

日本の教育が知識基盤社会に対応したものとシフトする中で、IB を経験した教員がノウハウのリレー役となることは意味がある。その役割にも注目しながら、今後も研究を続けていきたい。

## 注

- 1) 文部科学省国際統括官生田研一氏講演「今後の国際バカロレア教育の普及促進に向けて」より (2017/11/25) 於：玉川大学、第 10 回国際バカロレア教育フォーラム
- 2) IB から出版されている資料の参考文献からはリン・エリクソン、グラント・ウィギンズ、ジェイ・マクタイなど多くの教育コンサルタント、著者の理念が IB プログラムには取り入れられていることが読み取れる。
- 3) 手続きについては、文科省発行の「国際バカロレア認定の手引き」に詳しい。「国際バカロレア認定の手引き」(2015) 文科省 <http://>

- [www.mext.go.jp/component/a\\_menu/education/detail/\\_icsFiles/afiedfile/2015/10/13/1353392\\_01.pdf](http://www.mext.go.jp/component/a_menu/education/detail/_icsFiles/afiedfile/2015/10/13/1353392_01.pdf) (2017/11/30 閲覧)
- 4) 認定後の定期評価訪問は5年ごと。ただしPYP (初等教育プログラム) の初回評価訪問のみ認定から4年後。IBO ホームページ、IB The Culture Of Learning、<http://www.ibo.org/contentassets/b53fa69a03d643b1a739d30543ca8d65/authandevaluationmadrid.pdf> (2017/12/23 閲覧)
  - 5) IBO ホームページ、Facts and figures、<http://www.ibo.org/about-the-ib/facts-and-figures/> (2017/11/23 閲覧)
  - 6) 文科省ホームページ、大学におけるIB教員養成課程の設置、[http://www.mext.go.jp/a\\_menu/kokusai/IB/1352960.htm](http://www.mext.go.jp/a_menu/kokusai/IB/1352960.htm) (2017/11/30 閲覧)
  - 7) ウェンガーら (2002) は、コミュニティの制度化とは、それをサポートする組織体制を調整することによって、コミュニティが知識資源の世話人として果たす役割を正当化することだ、としている。
  - 8) 「有志教員による TOK 定例学習会」<https://drive.google.com/file/d/1dq5LAIWXdKIINy4-k4wUXKZUmaYON-/view?usp=sharing> 「探究型英語教育研究会」<https://peatix.com/event/304161/> 等を確認 (2017/11/30 閲覧)
  - 9) 日本国際バカロレア教育学会ホームページ、<http://www.jaiber.org/ja/> (2017/11/30 閲覧) 及び事務局にメール確認 (2017/11/30)
  - 10) 国際バカロレア・デュアルランゲージ・ディプロマ連絡協議会ホームページ、<http://le-ibldp.jp/> (2017/11/24 閲覧)
  - 11) 玉川大学ホームページ [http://www.tamagawa.jp/research/academic/news/detail\\_13220.html](http://www.tamagawa.jp/research/academic/news/detail_13220.html) (2017/11/10 閲覧)、高知県ホームページ (2018/1/19 閲覧) <http://www.pref.kochi.lg.jp/soshiki/311701/2016062000061.html>、日本私立大学協会ホームページ [http://www.shidaikyo.or.jp/apuji/activity/pdf/ib\\_Japan%20flyer.pdf](http://www.shidaikyo.or.jp/apuji/activity/pdf/ib_Japan%20flyer.pdf) (2018/1/19 閲覧)
  - 12) IBO ホームページ、IBEN role requirements、<http://www.ibo.org/en/jobs-and-careers/IB-educator-network/IBen-role-requirements/> (2017/11/10 閲覧)
  - 13) IBO ホームページ “Associations of IB World Schools” <http://www.ibo.org/contact-the-IB/associations-of-IB-schools/> (2017/11/24 閲覧)
  - 14) 文科省ホームページのIBAJ についての説明：「国際バカロレア (IB) の認定校及び候補校の校長により構成される。IB を支援するとともに、専門的なサポート、情報、サービスを得るための機会を提供することで日本の IB 校の全体的な発展に貢献することを目的とする。国内の様々な IB 校の職員や学生が、相互に交流する機会を提供することにより、IB の発展をサポートしている。」[http://www.mext.go.jp/component/a\\_menu/education/detail/\\_icsFiles/afiedfile/2017/05/30/1385712\\_004\\_3.pdf](http://www.mext.go.jp/component/a_menu/education/detail/_icsFiles/afiedfile/2017/05/30/1385712_004_3.pdf) (2017/11/24 閲覧)
  - 15) IBAJ ホームページ、<http://www.ibaj.or.jp/> (2017/11/24 閲覧)
  - 16) Basecamp、<https://basecamp.com/>
  - 17) East Asia MYP Coordinators Network e-mail より確認 (2017/11/8)
  - 18) IBO ホームページ、IBWS blog : Re-organizing ourselves to serve schools better、<http://blogs.ibo.org/blog/2016/12/08/re-organizing-ourselves-to-serve-schools-better/>、(2017/11/15 閲覧)
  - 19) IBO ホームページ、Strategic initiative to better serve the needs of IB World Schools、<http://blogs.ibo.org/blog/2016/07/12/strategic-move-to-serve-the-needs-of-authorized-IB-world-schools/> (2017/11/21 閲覧)
  - 20) IBO、IB コミュニケーションズ部門 (ハーグ) Charlotte Farrar 氏 e-mail より (2017/11/21)
  - 21) Beaverford,C., 2017,筑波大学 講義録、Professional Learning and Reflective Practice (2017/11/24)
  - 22) IBO は現役の IB 教員や、元 IB 教員など

の外部協力者を多用する。たとえば、試験問題の作成、採点には Chief Examiner, Examiner Responsible, Deputy Examiner Responsible, Principal Examiner など、試験の規模に応じて多種の役職がある。IBO ホームページ Senior examiner positions、<http://www.ibo.org/jobs-and-careers/become-an-examiner-or-assessor/chief-and-deputy-chief-examiner/> (2017/11/24 閲覧)

23) IBO ホームページより作成 Assessment production positions、<http://ibo.org/jobs-and-careers/become-an-examiner-or-assessor/assessment-author/>、IB External advisor recruitment policy <http://ibo.org/globalassets/jobs-and-careers/examiners/IB-external-advisor-recruitment-policy.pdf>、IB External advisor recruitment policy <http://www.ibo.org/globalassets/jobs-and-careers/examiners/IB-external-advisor-recruitment-policy.pdf> (2017/11/24 閲覧)

24) Programme Communities <https://internationalbaccalaureate.force.com> 筆者個人パスワードにてアクセス (2017/11/30 閲覧)

## 引用文献

ウェンガー・E 他 (野村恭彦監修、野中郁次郎解説、櫻井祐子訳) (2007) 『コミュニティ・オブ・プラクティス ナレッジ社会の新たな知識形態の実践』、翔泳社、p.33、pp.62-63、p.365

窪田眞二 (2017) 「日本における IB 教育導入の課題と展望」『国際バカロレア (IB) シンポジウム』講演資料、p.4

文科省 (2017) 「国際バカロレアを中心としたグローバル人材育成を考える有識者会議中間取りまとめ」 [http://www.mext.go.jp/b\\_menu/houdou/29/05/\\_icsFiles/afieldfile/2017/05/26/1385712\\_001\\_2.pdf](http://www.mext.go.jp/b_menu/houdou/29/05/_icsFiles/afieldfile/2017/05/26/1385712_001_2.pdf) (2017/11/15 閲覧)

レイヴ・J、ウェンガー・E (佐伯胖訳) (1993) 『状況に埋め込まれた学習 - 正統的周辺参加』、産業図書、pp.186-187

渡邊雅子 (2014) 「国際バカロレアにみるグロ

ーバル時代の教育内容と社会化」『教育学研究』第 81 巻第 2 号、p.40-50

Cambridge, J., (2002). Global product branding and international education, *Journal of Research in International Education*, 1-2, pp.227-243

Crawford, S., (2017) International Baccalaureate Association of Japan (IBAJ) A presentation to 第三回国際バカロレアを活用したグローバル人材育成を考える有識者会議、[http://www.mext.go.jp/component/a\\_menu/education/detail/\\_icsFiles/afieldfile/2017/05/24/1385710\\_004.pdf](http://www.mext.go.jp/component/a_menu/education/detail/_icsFiles/afieldfile/2017/05/24/1385710_004.pdf)、(2017/11/15 閲覧)

Faas, D., and Friesenhahn, I., (2014) Curriculum Alignment between the IB DP and national systems: Germany, Bethesda, MD, USA. International Baccalaureate Organization

Hill, I., and Saxton, S. (2014) The International Baccalaureate (IB) programme : An international gateway to higher education and beyond. *Higher Learning Research Communications*, 4 (3) , p.42-52

House, K. (2015) The elephant in the room : a critical examination of the International Baccalaureate Diploma Programme 's policy discourse, University of Bath Department of Education Working Papers Series, p.4.

International Baccalaureate, (2013), FOR IMMEDIATE RELEASE Japanese Students Obtain Greater Opportunities to Pursue an IB Education, <http://www.ibo.org/globalassets/publications/IB-press-announcement-2013-en.pdf> (2017/11/15 閲覧)

International Baccalaureate, (2014), Programme Standards and Practices, <http://www.ibo.org/globalassets/publications/programme-standards-and-practices-jp.pdf>

f (2017/11/23 閱覽)

Lave,J.,Wenger,E., (1991) Situated Learning  
– Legitimate Peripheral Participation –,  
Cambridge University Press

Rutherford C, 2010, “Facebook as a Source  
of Informal Teacher Professional  
Development” , in education, 16 (1) Spring,  
p.60-74

Wenger,E.McDermott,R.andSnyder,W.M.  
( 2002 ) Cultivating Communities of  
Practice,Harvard Business School Press